

令和5年5月30日

北九州市市民文化スポーツ局 松本清張記念館

報道関係各位

松本清張「砂の器」国際シンポジウム  
(松本清張研究会第45回研究発表会)

北九州市立松本清張記念館開館25周年と松本清張研究会創立25周年を記念して、  
標記の国際シンポジウム(第45回研究発表会)を、下記のとおり開催いたします。  
つきましては、ご多忙とは存じますが、取材方よろしく申し上げます。

記

1 日時：令和5年6月24日(土) 14:00~18:00

2 会場：松本清張記念館企画展示室(対面)

3 内容：対面開催とZoomによるオンライン開催

○第1部 講演(1時間) 「文学史の中の清張」

山田有策(研究会代表理事・東京学芸大学名誉教授)

○第2部 研究発表・討論(発表・2時間半)

「(共同研究)日本語・中国語・英語圏における『砂の器』の受容と展開」

・田中ゆかり(日本大学教授)

「高度経済成長期の映し鏡—『砂の器』の「方言」と「標準語」—」

・王成(中国・清華大学教授)

「中国における『砂の器』の受容」

・角田拓也(米国・コロンビア大学助教授)

「メディア・コンテンツの地平へ：北米における『砂の器』とその受容試論」

**\*講演者・発表者のプロフィールは次ページに記載**

4 参加方法 **参加無料・要申込**

「対面参加(定員30名)」「オンライン参加(定員500名)」とも、

記念館HP (<https://www.seicho-mm.jp/>) の

当シンポジウムの「お知らせ記事から北九州

市「電子申請」フォームを開き、事前に申込

むこと。

記念館HP



(問い合わせ・申し込み先)

松本清張記念館事務局 担当 中川・小田

〒803-0813 北九州市小倉北区城内2-3

Tel 093-582-2761 Fax 093-562-2303

## プロフィール

### 【講演者】 山田有策(YAMADA Yuusaku)

東京学芸大学名誉教授、松本清張研究会代表理事

1943（昭和18）年、名古屋市生まれ。東京大学文学部国語国文学科卒業、同大学院博士課程満期退学。その後、東京女子大学、東京学芸大学教授を経て、現職。

専門は明治文学を中心に幅広く近代文学を対象とし、特に樋口一葉、泉鏡花などを研究。著書は、『幻想の近代 逍遙・美妙・柳浪』（2001 おうふう）、『深層の近代 鏡花と一葉』（2001 おうふう）、『制度の近代 藤村・鴎外・漱石』（2003 おうふう）、『再生の近代 戦後という文体』（2008 おうふう）など多数。

### 【発表者】

#### 田中 ゆかり(TANAKA Yukari)

日本大学文理学部国文学科教授。博士（文学）。

1964年生まれ。神奈川県厚木市で生育、早稲田大学第一文学部を卒業。読売新聞社で記者を3年間務めたあと、大学院に進学。早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程修了後、日本学術振興会特別研究員(PD)、静岡県立大学国際関係学部専任講師などを経て、2006年度から現職。

専門は日本語学。主な著書は、『読み解き！方言キャラ』（研究社、2021年）、『方言萌え!? ヴァーチャル方言を読み解く』（岩波書店、2016年）、『「方言コスプレ」の時代—ニセ関西弁から龍馬語まで—』（岩波書店、2011年、第22回高知出版学術賞）、『首都圏における言語動態の研究』（笠間書院、2010年）など。

#### 王 成 (WANG Cheng)

中国・清華大学教授。

1963年9月生まれ。山東大学、北京外国語大学・北京日本文学研究センターで日本語・日本文学を学んだ後、立教大学で文学博士学位を取得。首都師範大学教授を経て、現職。2004（平成16）年、第6回松本清張研究奨励事業に共同研究で入選。

専門は、日本近現代文学、中日比較文学。主な論文・著書は「高度成長期の中国における松本清張の受容」（『高度成長期クロニクル』玉川大学出版部、2007年）、『「修養の時代」で読む文学』（北京大学出版社、2013年）、『東アジアにおける旅の表象—異文化交流の文学史』（共著、勉誠出版、2015年）。翻訳『小説の方法』（『大江健三郎自選集』第一巻、河北教育出版社、2000年）など多数。

#### 角田 拓也 (TSUNODA Takuya)

コロンビア大学東アジア言語・文化学部助教授（アシスタント・プロフェッサー）。

早稲田大学（英文学専攻）卒業後渡米、コロンビア大学にて修士課程（日本文学・メディア文化）修了、イェール大学にて博士号取得（映画・メディア学および日本文化研究）。シカゴ大学講師（映画・メディア学）などを経て2018年より現職。

専門は、日本映画、メディア文化、ドキュメンタリー映画等。主な論文、著書は、“Hani Susumu, Nouvelle Vague in Japan and Processive Cinema,” in *A Companion to Japanese Cinema* (2022, Wiley Blackwell)、  
「問いと指差し—神馬玄佐雄と『汚水カルテ』の映像試論」（『戦後史の切断面—公害・若者たちの叛乱・大阪万博』東京大学出版会、2018年）など。